

ディスカバー農山漁村の宝有識者懇談会概要

1. 日 時：平成29年6月14日（水） 9：30～10：00
2. 場 所：総理官邸3階南会議室
3. 出席者：菅官房長官、磯崎農林水産副大臣、山本内閣府特命担当大臣（地方創生担当）、萩生田官房副長官、杉田官房副長官、古谷内閣官房副長官補、新川内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、室本農村振興局次長、
林座長、あん委員、織作委員、藤井委員、向笠委員、横石委員
（欠席：今村委員、田中委員、永島委員、三國委員）
4. 概 要：
 - 林座長から開会挨拶
 - ・ この取組も4回目となった。昨年は、販路の拡大のための海外展開、地域のブランド化、観光、インバウンド、女性の活躍、農と福祉との連携など、たくさんの地域活性化に資する事例を発掘することができた。
 - ・ こうした優良事例の発掘を官邸とタイアップして行えることは、地方を元気にする上で非常に意義深いものと考えている。
 - ・ 委員の提案やアドバイスにより、選定地区の知名度向上に向けた取組についても改善が図られており、今後の進め方などについて、活発に意見交換を行ってまいりたい。
 - 菅官房長官から挨拶
 - ・ 安倍政権においては、農業の成長産業化を進め、農山漁村の「所得向上」を図ることは、「成長戦略」と「地方創生」の重要な柱の一つと位置づけている。
 - ・ 今国会においても、生産資材価格の引下げや流通・加工の構造改革に向けた法律改正を行っている。
 - ・ 地方創生の実現のため、農家民泊の拡大やジビエの利用拡大など、地域の方々の創意工夫が一層引き出され、農林漁業者の所得向上につながる意欲的な取組が行われるようしっかりと支援していききたい。
 - ・ これまでの選定地区をみると、例えば宮城県仙台市の水産物の販売イベントでは売上が3倍になっているほか、宮崎県高千穂町の6次産業化商品の甘酒の出荷本数が2倍になるなど、選定を機に着実に成果が上がってきている。
 - ・ 今年で4回目の選定となるが、新たに、公募期間中にシンポジウムを開催するなど、農村の埋もれていた地域資源の活用が一層進むよう工夫していききたい。
 - 磯崎農林水産副大臣から挨拶
 - ・ 農山漁村の活性化に向けた地域住民の意欲・機運を引き出し、選定地域の魅力発信を後押しする「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成26年から官邸と農林水産省が連携した形でスタートした。

- ・ これまで80地区の優良事例が選定されており、各選定地区では、それぞれの取組の推進のみならず、その取組が他地区の模範として、他地区の取組の推進にも貢献している。
- ・ 政府では、農山漁村の活性化と所得向上に向け、「農泊」の推進や、有害鳥獣の捕獲の強化、「ジビエ」の利活用などについて重要課題として取り組んでおり、今回の第4回優良事例地区選定に当たっては、これらの課題について取組を進めている地区からも多くの応募があることを期待したい。

○ 山本内閣府特命担当大臣（地方創生担当）から挨拶

- ・ 「ディスカバー農山漁村の宝」は、今回で4回目の選定となるが、農林水産省と内閣官房が連携し、地域の人々の熱意溢れる取組やその取組によって生まれる成果を表彰することは、大変意義あるものと認識している。
- ・ 昨年行われた第3回の選定証授与式に参加したが、「ディスカバー農山漁村の宝」で表彰された優良事例地区が表彰を契機にさらに取組を磨きあげ、その取組が情報発信され、全国へと広がり、地域が活性化する好循環を拡大させていくことが、まさに「地方創生」の礎となるものと考えている
- ・ 特に、少子高齢化や地域の人口減少・経済縮小といった課題を克服し、将来にわたって成長力を確保していくためには、地域資源や地域の特性を卓越したアイデアで活用し地域全体を牽引していく存在が重要。
- ・ 地方創生の実現にあたっては、地域の地場産業である第一次産業や商工業関係者の積極的な連携が不可欠であると考え、先月19日、農林水産・商工関係5団体による全国レベルでの連携協定の締結へと結実したところ。

（室本農村振興局次長から、資料に基づき、今後の進め方等について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。）

- ・ これまでの成果をみると、まさに継続は力なり。継続的な成果が経済的な成果にもつながってきている。最近では、色々な田舎を廻っていると、日本人旅行者だけでなく、外国人旅行者もよく見かけるようになった。facebookやSNSを活用した外国人向けの宣伝が上手くいっていると感じる。こういった外国人旅行者の増加を「ディスカバー農山漁村の宝」にもつなげていけばよい。
- ・ 今後のPRを考えると、オリンピックが控えていることもあり、海外からの来客に対して、「ディスカバー農山漁村の宝」で何かできることがあれば良いと思う。また、テレビの通信販売では、物産を販売するのに1日中かけて全国へ情報発信している。そういったツールと連携して、選定された地区の物産をPRするのもひとつの方法だと思う。
- ・ シンポジウムは毎年継続してやれば良いと思う。地方でやることはその地域での盛り上がりにつながるので、良いとは思いますが、やはり全国的なシンポジウムであるということを打ち出していく必要もあると思う。今回の熊本でのシンポジウムには北海道や東北の地区にも参加してもらえるが、次回は全国から幅広く優良事例地区を呼べればなお良いのではないかな。

- ・ これまでの選定地区を色々と廻ってきたが、最近一番嬉しかったのは、北陸新幹線の駅の売店で、昨年選定された高校生達に取り組んでいた廃棄される鮭で開発した魚醤がずらりと並んでいたこと。選定された団体の活動が認識されていくのは良いことだが、その一方で、地域住民の方々に「ディスカバー農山漁村の宝」の名称が浸透しているかという点はまだ不十分だと感じた。今後は地域住民の方々にも認識・浸透させることが大事。
- ・ 昨年も応募数が多かったが、今年もどうなっていくのか期待したい。その一方で、書類審査の過程で気になるのは、書類の書き方が上手な地区はそれはそれで結構なのだが、取り組んでいる内容は素晴らしく、泥臭く一生懸命頑張っているが、書類の書き方が上手でなかったりすることで損をしている地区が、地方に行けばたくさんあるということ。数が多くなっていくと仕方ないことだとは思いますが、地方農政局など現場でフォローしてあげて欲しい。
- ・ 昨年700を超える応募があったが、それに伴って選定から漏れてしまった地区もたくさんあった。今回の選定では応募することそのものにメリットが出るように、応募してくれた地区についても紹介していくといった手法をとっていることは良いことだと思う。

(委員からの発言を受け、菅官房長官及び萩生田官房副長官から以下のとおり発言。)

○ 菅官房長官

- ・ 各委員からのご意見は、それぞれなるほどという内容だった。外国人旅行者の誘致を始め、色々なことを発掘活用して、この取組に巻き込んでいくことも必要であるし、また、選定した地区だけでなく、応募のあった地区ももっと宣伝しても良いと思う。

○ 萩生田官房副長官

- ・ 昨年12月のマルシェに行かせていただいた。大変盛況だったが、隣で他の物産展も開催されており、どこからが「ディスカバー農山漁村の宝」なのかが解りづらかったのが、今回はきちんとスペースが確保できれば良い。
- ・ これだけのイベントなので、官邸での表彰の様子などをディスプレイで放映したり、遠慮しないでもっと大きな看板を設置するなどしても良いと思う。
- ・ 販売できる産品がある団体は良いが、そういったものがない、例えばソフト部門の団体には、パネルなど用意して差し上げ、自分たちの取組が紹介できるような環境にできれば良いのではないかと思う。

5. 今後の予定等：

- ・ 事務局提案のとおり、第4回選定の実施方針等について了解。
- ・ 6月15日から8月21日まで優良事例の公募を行う。
- ・ 有識者委員による審査を経て、10月下旬頃に優良事例を選定し、11月下旬頃に交流会を実施する予定。

(以 上)